

公民館報 坂城

平成30年
2018.5.23
No.386

発行／坂城町公民館 発行人／清水 守 編集／広報部 印刷所／滝沢印刷（同）
〒389-0602 長野県埴科郡坂城町大字中之条 2468 TEL.0268-82-2069



※主な内容※

平成30年度公民館体制 2～3 P
ふるさと探訪PART101 4～6 P
行事・講座開講、500字リレートーク 7 P
お知らせ、館説 開畝 8 P

第29回文化の館 春の合同茶会開催

新緑の木漏れ日の中で、4月29日（祝・日）文化の館において、日本の伝統的な文化を体験する『春の合同茶会』が開催されました。
（本席…裏千家、野点席…江戸千家）
153名の大勢の皆さんに和の心「合同茶会」を満喫していただきました。

お知らせ

第40回納涼音楽会

夏の風物詩である納涼音楽会が今年も開催されますので、皆さんお出掛けください。

日時 7月8日（日）
午後1時開場・1時30分開演
場所 文化センター 1階 大会議室
主催 坂城町音楽愛好会・坂城町公民館
出演 町内音楽団体
坂城町吹奏楽団
アルストロメリア
童謡唱歌を楽しむ会
坂城オカリナ教室
坂城コーラス モアナハワイアンズ
町内小中学校、坂城高校からも参加します。



『第63回坂城町成人式』 8月15日開催!!

63回目を迎える今年の成人式の該当者は、平成9年4月2日から平成10年4月1日生まれの方で、町内に住所を有している方、または坂城中学校を卒業した方等が対象です。

～名簿の作成と「ご案内」発送についてお願い～

☆成人式の「ご案内」は、7月上旬に発送を予定しています。
☆発送は、学生等で町外に転出されている方についても、町内ご住所（実家等）宛となります。
☆ただし、次に該当される方、または、該当する人を知っている方は、お手数でも町公民館事務局までご連絡ください。
①発送先を上記以外に希望される方
②婚姻等で姓・住所が変わった方 ③世帯ごと町外に転出されている方
④町内の方で、坂城中学校以外へ進学等された方
【連絡先】坂城町公民館事務局 電話 82-6637

川の学校

千曲川について親子で楽しみながら学ぶ講座です（2日間）。

講師 後藤敏一さん、後藤正一さん
会場 千曲川（坂城大橋下周辺）
日時 6月30日（土）15:00～18:30
7月1日（日）5:00～9:00
受講料 1,000円
事前申込みが必要です。



第38回町民ゴルフ大会

町民の親睦と健康増進、体力・技術の向上を目的に町民ゴルフ大会を開催します。

期日 7月22日（日）
会場 浅間高原カントリー倶楽部 **参加費** 3,000円
申込期間 6月16日（土）～18日（月） 午前10時～午後4時
申込場所 文化センター2階ロビー
募集人員 200名 **参加資格** 町民・町内勤務者
競技方法 18ホール 新ベリア方式



生活改善で葬儀、婚儀をする場合の案内状に同封する通知文は文化センターにあります。

葬儀・・・香典1,000円、法事3,000円
香典返しは半返し以内で。花輪は辞退しましょう。近親者はこの限りではありません。
婚儀・・・祝儀（会費）3,000円
引き出物、記念品を出さない。近親者はこの限りではありません。

ご利用ください。

生涯学習のマスコット
“マナビィ”



館説 開畝

「仮面ライダー」の作者がデザインし、生涯学習の「学び」とミツバチの「bee」を合わせて「マナビィ」と名付けられたそうです。

昼間は汗ばむほどの日が多くなってきましたが、それとともに虫の活動も活発になってきました。家の軒先にハチがやってきて巣を作り出しました。巣を壊しても次の日にはまた同じ所に巣ができています。この場所が気に入ったのか、根気強さに驚きます。

さて、ハチについての話ですが、四月に各家庭に配布しました『まなびの玉手箱』には、生涯学習のマスコット「マナビィ」が描かれています。ミツバチがモデルになっていますが、よく見ると頭に触覚が三本あります。初めてご覧になった方は、「あれ、触覚は二本じゃなかったかな」と思われるかもしれません。私も初めは間違いました。いかなと思いましたが、調べてみると、これは文部科学省から依頼された故・石ノ森章太郎さん（サイボーグ009）や「仮面ライダー」の作者

がデザインし、生涯学習の「学び」とミツバチの「bee」を合わせて「マナビィ」と名付けられたそうです。

マナビィは、平成元年に始まった全国生涯学習フェスティバル（まなびピア）で登場し、生涯学習のマスコットとして現在全国各地で使われています。触覚が三本あるのは、「学ぶ」という漢字の「つかんむり」を表しているとのこと。さらに、マナビィが持っている壺の中身はハチミツではなく、聖書に出てくる「マナ」という植物の実で、何年もこれだけを食べ続け生き延びたと言われています。

マスコットのマナビィにこのような意味が込められていることを知り、石ノ森さんの発想の豊かさにあためて感心するとともに、いつでも、どこでも、だれもが楽しく学び続けてほしいというマナビィのメッセージを皆様とともに受け止め、生涯学習の推進に寄与する公民館活動に努めたいと思います。

平成30年度坂城町公民館事業スタート

3月をもって任期満了により、公民館長の中島敏さん、副館長の中沢利子さんが退任され、4月から清水守さんが公民館長に就任しました。

「公民館へ行こう！」を目指して



清水 守

新緑のまぶしさが目にしみるこの頃となりました。

中島敏公民館長ご退任後、公民館長に就任しました清水守と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

初めての経験で戸惑うことばかりですが、文化講座や施設使用の申し込みなどで文化センターを訪れる皆様から声をかけられたり、久しぶりにお会いする方や以前お世話になった方もいらつしたりして、気持ちもホッと和むとともに、老若男女さまざまな方が文化センターを利用されていることを肌で感じました。

公民館は「つどう」（みんなが気軽に集う自由な交流）、「学ぶ」（地域の課題に即した学習の機会を提供する）、「むすぶ」（人と人、人とグループを結び、仲間づくりを支援する）という三つの役割を持っています。しかし、これらの役割を果たす魅力ある公民館にするためには、分館の皆様にもご協力をいただきながら、町の皆様の声を聞き、創意・工夫のある公民館活動にしていかななくてはなりません。職員一同一丸となって、皆様が「公民館へ行こう！」と誘い合っていただけのような公民館を目指していきたいと思えます。どうぞ、よろしく願っています。

ありがとうございました



中島 敏

山桜の花が新緑とともに山肌を駆け上ります。菜の花が咲き、蝶が舞い、いつもと変わらぬ春が巡ってきました。

私、四年間務めさせていただきました坂城町公民館長を平成三十年三月に退任いたしました。

この間、文化の町坂城づくりや地域コミュニティづくりを支援する、より魅力ある公民館活動を目指してまいりました。

何ができたのか問い返しますと反省ばかりですが、目指したものに、少し近づけた活動の一つは、文化センター一・二階ホールを公民館文化講座で学ぶ皆さんや地域文化団体の皆さんの作品展示の場にしました。二つには「分館役員等研修」を、各分館の特色ある活動や時代に合った事業運営の工夫を話題にする、情報交換の場として再構築しました。

分館役員さんはじめ多くの皆様のご支援をいただき職務を全うできたことに深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

退任にあたって



中沢 利子

今年の春は、いつもの年より一週間も二週間も早く

訪れ、いつの間にか新緑の便りが山々や庭に届いてきました。

この度、三月をもちまして、町公民館副館長を退任させていただくことになりました。長い間、お世話になりました。毎年、公民館事業には、多くの皆様の御協力をいただき、開催することができました。本当にありがとうございました。私自身、参加させていただき、いい経験をさせていただいたと思っております。

これからの公民館事業は、時代の変化にあわせつつ、多くの方々に参加していただける必要があります。

また、これからは、高齢化、一人暮らしの方が増えていき、コミュニケーション不足となっています。そんな中、公民館事業は、重要な役目を持つているように思います。ぜひ多くの方々が、参加できるよう、お声かけ、誘いあい、いつでも楽しく活動ができますことを願っております。

本当にありがとうございました。

公民館文化講座開講

4月17日（火）文化センターにおいて「平成30年度坂城町公民館文化講座開講式」を開催しました。12講座の学びが始まりました。



リトミック教室スタート！

5月9日（水）、文化センターで体を動かしながら、楽しく音感が身につく「リトミック教室」がスタートしました。中沢敏江先生の指導により、元気な歌声やリズムカルな運動をして楽しんで教室に参加されていました。

若干定員に余裕がありますので、興味のある方はぜひ坂城町公民館までお問い合わせをしてください。



第35回坂城町囲碁大会開催

3月18日（日）、文化センターにおいて「坂城町囲碁大会」を開催しました。終日、頂点を目指して熱い戦いが繰り広げられました。結果は次のとおりです。



公民館長杯

優勝	宮沢 輝男	三段	嵐団地
準優勝	深代 元栄	六段	旭ヶ丘
三位	松岡今朝志	五段	大宮
四位	中野 勝治	七段	月見
五位	小山 猶幸	四段	月見

文化協会長杯

優勝	丸田 英夫	二段	新地団地
準優勝	小出 一彦	二段	御所沢
三位	牧寄 貞夫	二段	込山
四位	武内 範夫	一段	新地
五位	坂本 光男	二段	込山

第35回坂城町将棋大会開催

3月25日（日）、文化センターにおいて「坂城町将棋大会」を開催しました。小学生から90歳まで64名の参加がありました。結果は次のとおりです。



公民館長杯

優勝	鈴木 翼	長野市
準優勝	田中 博己	長野市
三位	柏原 哲也	長野市

文化協会長杯

優勝	上原 照章	長野市
準優勝	倉島 誠一	千曲市
三位	山崎 隆太	金井



500字リレートーク

百聞は一見にしかず
〜サウジアラビアに
行ってきました〜

近藤 敏朗

国交60周年、使節団の一員として訪問の機会を得ました。

夜到着、真暗な砂漠の中、オレンジに輝く首都リヤドは絶景です。高層ビルが多く、かなり都会です。高さ1000mのビルが建設中で、素敵な展望タワーもありますが、観光ビザを発給しないので観光客はゼロです。展望台には私だけでした。

女性の運転はほぼ不可ですが、小学生位の男子がトラックを運転し、荷はラクダ。トヨタ、日産、マツダ車多く、自転車、バイクは皆無です。あまりウインカーを出しません。タクシーは現代製多く、かなり飛ばします。運転士や建設業、メイド等はほぼ外国人労働者です。月給は30万円弱です。

普通の家庭の月給70万円程で、車検等税金がないので引かれません。妻は4人までOK。実際には2人位です。



平成30年度【分館役員のみなさん】(敬称略)

分 館	分館長	副分館長	文化部長	体育部長	広報部長
鼠 宿	西 澤 淳	山 田 きよ子	小 池 一 成	西 澤 直 行	堀 幸 生
新 地	多田井祐二	池 田 宏	内 山 英 三	横 山 幸 次	瀬 下 幸 二
金 井	宮 嶋 洋 治	表 哲 男	内 山 鉄 也	山 崎 晋 一	塚 本 圭 司
入横尾	田 中 秀 樹	近 藤 哲 也 宮 下 修	浅 井 直 樹	西 澤 哲 也	岩 戸 啓 二
町横尾	松 崎 英 和	小 林 厚	竹 花 洋 明	柳 沢 智 彦	堀 内 哲
泉	飯 島 勝 利	足立ノンカーン	池 上 初 代	戸 谷 涼 一	高 橋 一
中之条	柳 澤 次 夫	今 井 賢 一 宮 入 修 治	牛 澤 高 志	大 久 保 博	中 沢 公 良
四ツ屋	中 沢 澄 夫	天 田 藤 雄	山 宮 清 光	金 沢 光 雄	天 田 宏
戌久保	千 野 正 男	前 澤 耕 治	都 筑 建 誌	平 良 一 文	赤 池 珠 美
御所沢	竹 堤 やす子	小 口 秀 男	久 保 田 恵	滝 澤 建 寿	倉 島 千 恵
田 町	竹 内 禎 夫	寺 沢 至	塚 田 広 司	米 山 智 裕	片 桐 修
横 町	竹 鼻 春 幸	荒 巻 春 也 山 崎 文 男	小 林 勝 利	渡 邊 信 一	宮 下 秀 陣
込 山	中 沢 勝 信	山 口 英 昭	宮 尾 哲 哉	佐 藤 健	宮 沢 翼
立 町	岩 井 博 光	柳 沢 勝 彦 中 沢 裕 一	平 田 恒 喜	春 日 邦 博	池 田 隆 宏
旭ヶ丘	宮 崎 正 幸	荒 井 明	栗 田 守	亀 井 貴 子	青 山 園 子
南日名	小宮山好孝	小宮山育朗 塚 田 郁 夫	島 田 三 男	柘 植 幸 勇	島 田 三 男
北日名	鈴 木 文 三	西 澤 志 子 関 哲 也	山 崎 敏 雄	春 日 雄 次	関 哲 也
日名沢	中 島 一 行	小 林 弘	中 村 淳 一	宇田川恵司	鈴 木 純 子
大 宮	手 塚 光 二	吉 崎 博 明	小 林 清 樹	小 山 弘 昭	金 崎 晃 児
新 町	横 山 洋 一	富 山 泰	宮 原 伸 廣	中 澤 弘 幸	吉 村 朋 子
坂 端	中 沢 修 司	竹 内 秀 雄	高 橋 寛 之	竹 中 譲	丸 山 真 哉
苅屋原	水 出 恒 明	千 野 朗	水 出 孝 之	水 出 和 夫	宮 原 佳 代
網 掛	宮 原 紘 一	久 保 良 祐 武 井 靖 一	武 井 靖 一	塚 田 友 行	宮 崎 正 男
上五明	塚 田 明	山 城 健	竹 内 和 幸	久 保 田 真	川 島 要 子
上 平	中 澤 誠	宮 下 祥 次	山 辺 宝 予	朝 倉 千 尋	浜 本 正 樹
小 網	吾 妻 幹 夫	塩 野 文 明	高 松 尚 武	倉 科 泉	山 崎 實
月 見	朝 倉 寛 之	滝 沢 和 美	加 藤 裕 美	知 野 隆	上 野 清 子

本館専門部員のみなさん

専門部は、町公民館の事業をそれぞれ分担して企画立案し、公民館運営の要として活動します。

総務部

町公民館事業全体を検討し、推進します。

部 長 中沢 澄夫 (四ツ屋)
副部長 水出 恒明 (苅屋原)
西澤 淳 (鼠 宿)
宮嶋 洋治 (金 井)
中澤 誠 (上 平)

文化部

文化事業を企画し、運営します。

部 長 島田 三男 (南日名)
副部長 宮尾 哲哉 (込 山)
池上 初代 (泉)
小林 勝利 (横 町)
小林 清樹 (大 宮)

体育部

健康増進のため体育事業を企画し、運営します。

部 長 塚田 友行 (網 掛)
副部長 中澤 弘幸 (新 町)
西澤 哲也 (入横尾)
米山 智裕 (田 町)
宇田川恵司 (日名沢)
知野 隆 (月 見)

広報部

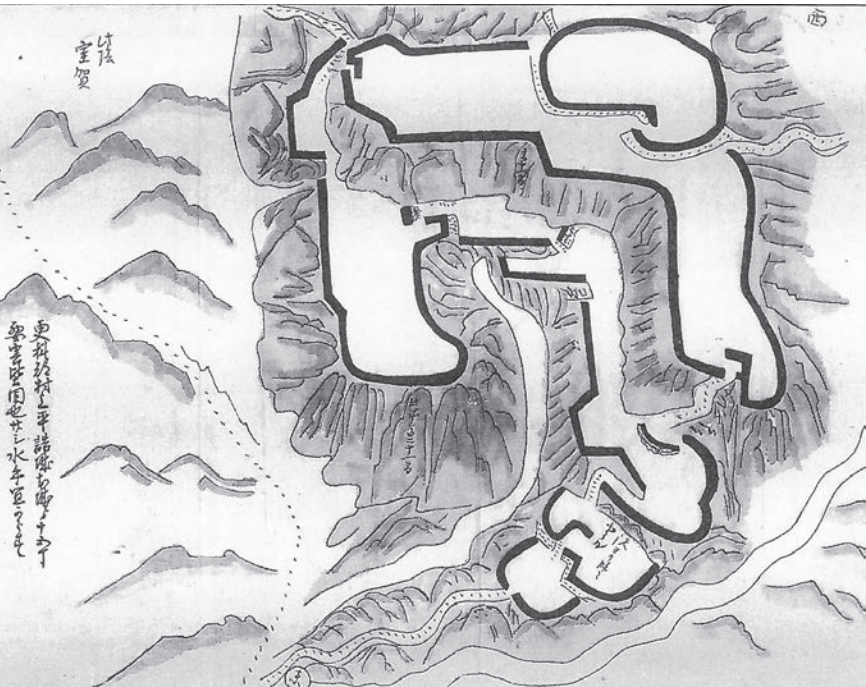
公民館報を編集し、発行します。

部 長 中沢 公良 (中之条)
副部長 瀬下 幸二 (新 地)
倉島 千恵 (御所沢)
池田 隆宏 (立 町)
川島 要子 (上五明)

村上氏居城(島館)絵図



しかし、彼の作による他の城郭図などをみると意外に正確なので掲げた。たぶん近世の軍学が盛んになつてからの作ではあるまいか。図には「信州更級郡村上平城、村上氏代々居城、天文之頃焼跡也、詰城者南方山嶺ニ有、此地ヨリ十五丁(約一六四〇m)斗有レ南」とある。なお図の方位は違っているようである。島は三方を山に囲まれ、千曲川に面した所に防備をすれば安全である。そこで後背湿地などを天然の堀とし、複雑な虎口(入口)を置いている。右の「ノロシタイ」とあるのは、自在山のことである。大手は猪鼻沢の北である。島館の旧状を伝えるものは今は何もないので、貴重な図といえるのではなからうか。「千曲川迄六丁(約六五〇m)」と記されているが、河川交通のことを考えての記載であろう。彼の画いた城郭図には川までの距離が多く記され



村上上平詰城

ているのが特徴である。もう一枚の図は、左に「更科郡村上上平詰城、本城ヨリ十五丁要害堅固也、サレド水手宜カラズ」と記されている。詰城とは戦いになったとき、避難するための施設で、最後の砦ともいえる。本郭(後の本丸)は右上で空堀に囲まれてお

り、大手は下辺で二番目の郭には空堀も見られる。しかし、他の図と異なり、寸法などは記されていない。この山城は早い機会に山崩れなどで旧状を失ったらしく、伝承も残されていない。まぼろしの山城ともいえそうである。(網掛 浅野井 坦)

特集 ふるさと探訪 PART 101

村上地区を通った中世の道(その3)

今回のふるさと探訪は、前々号から掲載している中世の街道の研究を長年続けている浅野井垣さんの寄稿です。

○御厨社と上平の舟着場

福沢の荒宿から下がった道は、やがて寺替から来た道と合わさる。このあたりを「おんまわし」と呼んでいる。それは福沢川が大きく東へ曲げられたからとか、大昔千曲川が大きく曲がり始めたところとか、街道を進んできた馬が鋭角に

曲がる御馬廻しなどから名付けられたと考えられている。なお「お馬廻し」の語は他地域にも同様な例がある。

御厨社北側の舟着場と伝えられている場所は、大昔千曲川が大きくカーブしてできた地形で、川がカーブして曲がった内側は浅く、

外側は深く掘れている。そのため今も湿地状で水田となっている。昔の福沢川は直流してこの場所にも流れ込んでいたはずで、東や西にもふれていたと思われる。

鎌倉時代の終わりごろ、当地には伊勢神宮の御厨が置かれ、村上御厨と呼ばれ

た。村上氏が承久の乱であいまいな態度をとったため、幕府ににらまれることとなり、領地の一部を神宮に寄進し、家名の保持を祈ったのではないかと伝わっている。当時は上山田の辺までが村上と呼ばれたが、御厨の土地は、さほど広いものではなかった。御

厨社は由緒あるお宮ということで、江戸時代は上平区で唯一社領を得ていた。

この御厨社は、神明造りの社殿で、千木の形は水平の内そぎなので内宮の形式を残している。また上山田城腰の波閑科神社の社殿も神明造りである。このことからみて村上御厨は、村上から上山田の辺までとびとびに御厨が点在し、散在庄園ともいえる。古道を背にして



御厨社裏の舟着場付近・おおみち



御神木・舟着場の目印

存在する御厨社は、神社の立地としてはふさわしくない。元神官宅での聞きとりによると約四〇〇年位前、水害により当地へ移ってきたと伝わっている。また境内で御神木とされているケヤキの古株は、舟着場の目印と昔は伝わっていた。ケヤキは幹の太さから見て七〇〇年位の樹齢で、江戸初期の寛永年間のころ（一六二四〜四三）枯れたと伝わっている。

上平では「おおみち」とよんでいる。中世の街道は、大道とよばれているが、上平ではこれを訓読みにしたのだろう。

びんぐし公園すばく坂

城入口付近の福沢、藤の木のある周辺は昔、「藤の道祖神」とよばれていた。今と異なり、見上げるような高い位置にあつて、耳の病いを治すとも言われていた。「道祖神」の名なのにそれらしいものはなく、五輪塔や宝篋印塔の残欠、それに先の尖った石などが集められていた。この残欠から考察すると、ここは土豪の墓所である。墓所があるからには館があつたはずである。それらしい平地は南西の方向のブドウ畑にあたる。

尾張藩では荷を運ぶ牛を「岡舟」として、鑑札を出していた。舟で運ばれた重い荷は、ここで牛馬に積まれ、室賀に行ったのではなからうか。ここの古い道、

館では四隅の延長上に神仏を祀ったり墓を営んだりする例が多いことから、ここでは北東つまり鬼門に墓をおき、祖先の霊に館を守ってもらおうとしたのだろうか。また福沢川の向こ

う、北西の乾の方向の畑の中に、昔は祠もあつたと伝わっている。しかし、館の痕跡及び伝承は全く伝わっていない。わずかに藤の道祖神が残るのみである。ここにあつた館は、村上支族の福沢氏のものである。同氏は当初村落領主的なものだったが、だんだん

ん出世して塩田城を預かる身となる。掲げた写真は塩田城の鬼門除けである。右にあるのが大ジングウサンと地元でよばれている。福沢氏の故郷の御厨社から分霊をもらって祀ったのだらう。左はオサカキ様で、敬称のオをとれば坂木である。おそらく坂木大宮社の

分霊を持つていったにちがいない。福沢氏が没落し、その後、塩田城が廃されても二つの社は残った。当時の村人は崇りを恐れていたので、大切に祀って現在に至っている。今は東前山集落の鎮守的な存在になっている。

福沢諭吉の祖先は信州出身という。県内の福沢姓の発祥地は三カ所とされている。中信の茅野では鳥居峠の合戦で、武田勝頼方について敗れ、九州へ落ちていったと伝わっている。伊那の福沢姓は「おらはは、そんなところへ行つてね」と述べ、網掛は今まで無関心で沈黙を守っていた。

○村上氏の島館と詰城

御厨社の舟着場から、川の氾濫にあわないう高所を通つて北へ行くと、村上氏の島館がある。掲げた図は、森庄蔵の描いたもので、原図は色つきである。館の図としては異様な形をしている。



塩田城の鬼門除け